

◎「会員だより」

12月号の「特集（社会資本のストック効果）」を読んで、ストック効果を最大化するために、生活の質や生産性の向上など様々な視点から事業を計画する事が重要であると感じました。

吉田大展（市町村勤務、38）

12月号の「諸外国のインフラ情報」で紹介されていたカーボンニュートラルに先駆的に取り組んでいるHS2プロジェクトが大変興味深かったです。日本でもこのような取組をスタートすべきか、スタートできるかを考えさせられました。

匿名希望（高速道路会社勤務、52）

12月号の「公務員技術者の訴訟リスク～事例と解説～（5）」を読んで、実際の工事で住民から訴訟を起こされて賠償することとなった事例があることに衝撃を受けました。多くの読者の方が賠償責任の保険に入るきっかけになると思います。

匿名希望（市町村勤務、37）

12月号の「学ぶ・つなぐ・広げる」の「土木技術の伝承・技術力の向上にむけた活動」を読んで、今こそ若手技術者へ技術を継承することが必要であるとあらためて感じました。

蓑方公（元都道府県勤務、61）

12月号の「ひろば」の「まちの自慢「北海道遺産：旭橋」」を読みました。小学生が選んだ旭川の自慢できるものとして、インフラの旭橋も選ばれたことは良かったと思いました。自慢できるくらい愛着を湧くものをつくることのできる仕事に携われて良かったです。

田中秀典（各務原市勤務、38）

1月号の「表紙」は、西日本豪雨により発生した大規模な浸水被害があった倉敷市真備町の写真でした。写真を見るとゾッとします。

匿名希望（地方整備局勤務、54）

1月号の大石会長の「新年の御挨拶」にあったように、技術変化の時代を先導して「ワクワクする気分」で挑戦的に今年も乗り切っていきたいと思えます。

匿名希望（国土交通本省勤務、44）

ICT施工、BIM/CIM、DX施策等、年配者にはその進捗が速すぎてついていくのが大変ですが、それらを分かりやすく丁寧に編集されており、ガイドブック的に活用させてもらっています。

匿名希望（北海道開発局勤務、59）

勝手なイメージから技術士は行政側にはあまり必要のない資格と思っていましたが、1月号の「技術資格試験合格体験記」の「総監取得のススメ」を読んで、資格取得の必要性を痛感しました。これを機に前向きに検討していきたいです。

匿名希望（市町村勤務、39）

区画整理は事業スパンが長くなるので、なかなか事業全般を理解している経験者がいません。1月号の「基礎から学ぶ土地区画整理事業」は事業の流れや制度が体系的に書かれており、とても勉強になります。

匿名希望（市町村勤務、38）

1月号の「災害査定留意点」は、災害復旧設計時、とかく災害査定や会計検査を意識して原形復旧に拘ってしまう技術職員へ勇気と刺激を与えてくれる記事です。今号は特に根拠の重要性の気づきがありました。次号の採択事例が楽しみです。

匿名希望（都道府県勤務、57）

1月号の「災害発生！そのとき」の「集落孤立という現場に直面して」は、現場での課題、TEC-FORCEとのやりとり、地元との調整などの対応が時系列的に記述されており、とてもわかりやすかったです。コロナが終息した際に、ぜひ講演会等で実際に話を聞いて勉強させていただきたいと思いました。

匿名希望（都道府県勤務、48）

1月号の「あーきてくと通信」の「環境にも優しくまもと型伝統構法を用いた木造建築物の普及」を読んで、地場産業の利用促進とCO₂排出削減にも取り組んでいる独自の木造建築物の技術を継承をしているところに大変興味を抱きました。

柴山真克（都道府県勤務、55）

1月号の「ひろば」の「中津日田道路の全線開通に向けて」を読みました。トンネル内のキャンプなどのおもしろいイベントを開催しており、私も現在遊水地建設の途中で、イベントを考えるきっかけになりました。

匿名希望（都道府県勤務、27）

1月号の「後輩技術者に向けたメッセージ」を読みました。経験が少ない現場でどうすれば良いのか悩むことが多いため、先輩方の経験談や失敗談などは今後自分が迷った際すべきことの道しるべとなり、とても貴重でためになります。

匿名希望（都道府県勤務、33）

1月号の「会計検査の指摘事例と解説」には、下水道管渠の更生工事の施工で気を付けなければならないことが掲載されており、下水道事業の維持管理に従事する私にとって非常にためになりました。

匿名希望（市町村勤務、33）

1月号の「事例から学ぶ現場力の向上」の「法面工 吹き付けコンクリートの凍結」を読みました。特に災害復旧等で、厳冬期であってもコンクリート打設をせざるを得ない場面があると思います。そういった場合に、どういうリスクがあるかを知る一助となりました。

阪本浩章（高速道路会社勤務、33）

1月号の「建設技術者のためのこの一冊」で「日本の分水嶺」が紹介されています。分水嶺は流域の境目だけでなく、気候、生活スタイル等の境目となる場合があります。身近な分水嶺を見ても、心当たりが思い浮かびます。そのような分水嶺に関する興味深い話題や身近な疑問を知ることは、新たな視点を得ることにつながると思います。

匿名希望（市町村勤務、59）

◎「会員だより」の投稿を募集

月刊「建設」に関する意見・感想・要望、その他の全建活動（建設技術講習会、伝承プロジェクト、公務員賠償責任保険等）に関する意見・感想・要望、業務上の悩み等をお寄せください。お寄せいただいた意見等は、今後の編集等の参考にさせていただきます。月刊「建設」の「会員だより」に掲載させていただいた場合はクオカードを進呈いたします。詳細は全建HP上のバナーをクリックするか、右のQRコードを読み取ってください。たくさんのご応募をお待ちしております。

一般社団法人 全日本建設技術協会 事業課 峯脇・中嶋
TEL：03-3585-4546 / E-mail：kensetsu@zenken.com

